

# 建築家の魅力を社会に開く

## 建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-13-7  
電話(03)3259-8711  
FAX(03)3259-8730  
振替貯金口座00190-2-97953  
©日刊建設通信新聞社 2012

昨年9月の選挙で続投が決まった芦原太郎日本建築家協会(JIA)会長。1期目はUIA(国際建築家連合)東京大会や東日本大震災などへの対応、さらに、JIA組織・財政の立て直しに追われた2年だった。2期目は公益社団法人への移行対応などが当面の「仕事」になりそうだ。5月の総会で正式に選任されるのを前に、芦原会長は日刊建設通信新聞社のインタビューに応じ、2012年度は公益活動展開、業務環境改善、新しいマーケット開拓の3点を重点に活動する方針を示した。

## 公益活動で地域の役に

芦原会長は、組織再編、財政再建、次世代建築生産社会システムの3つの改革に取り組んだ1期目を「基盤づくりの2年だった」と振り返る。2期目は3つの改革を継続するとともに「社会にとって、会員にとって魅力的なJIAにならないければならない。そのため12年度は、公益活動の展開、業務環境改善活動、新しいマーケット開拓に取り組みたい」との方針を示した。建築家の職能を確立するためには「『建築家法』ができただけでは不十分。建築家、JIAが社会にとって魅力あ

### JIA会長 芦原 太郎氏

る存在でなければならぬ。同時に、会員にとっても魅力あるJIAにならないければならない」とした上で、「社会の中で建築家の魅力が分かってもらえればマーケットは拡大するはず。そのために建築家ブランドをつくり、世の中に浸透させたい」との考えを示した。

その方策の一つとして、「公益活動を展開し、社会、地域に役立つこと」を挙げる。具体的には、市民・行政・専門家が議論しながら地域環境づくりの方向を決める場、システムとしての「J・CABE」を設立し、「震災の復興からやれないかと考えている」という。さらに、「公益性」という点では、JIAの表彰制度も身内だけの制度ではなく、社会に開かれた外に向けての表彰制度とし、建築家や建築を社会に示していく方向を探りたい」とも。

超低価格入札の問題や実績重視によるプロポーザルへの参加制限は「これまでどおり、おかしいと言いつつ続けなければならぬ」とするとともに「相手の話を聞きながら、それならこうしましょうという提言、提案とサポートを展開したい」と考えた。

さらに「できた建築でまちがよくなった、文化的な貢献をしたという評価、チェックする機能があれば、設計者の選定の仕方も変わってくると思う。その評価・チェック機能をJ・CABEが担うこともある」。同時に、法制度の改正など長期を見据えた取り組みも進める。

るべきだと思う。UIA東京大会を経験して、日本の建築家のレベルが高いことが明らかになった。海外進出は、世界のコミュニティ・アーキテクトとしての貢献でもある」とし、そのために「友好関係を築くのが主な目的だった国際委員会を、『実』も取るための委員会へと改編し、海外進出のスタートを切りたい」

さらに、一般財団法人国際建築活動支援フォーラムの設立などを例に、「若い世代が海外に出て行き、ハンディなしに同じ土俵、ルールで戦えるようするためには、資格制度や契約の問題も解決しなければならぬ」との問題意識のもと、関連団体との協議も踏まえながら「国際国家資格」の実現に継続して取り組む考えを示した。

その「一里塚」として協議しているJIAの登録建築家制度と日本建築士会連合会の専攻建築士の一本化については、「どちらかがどちらかを飲み込む・飲み込まれるということではなく、国際化に対応可能なまったく新しい資格制度をつくるという認識でいる」とした。

また、海外進出とともに、「設計・監理を超え、まちづくりや建物の維持管理などの地域環境マネジメントというソフト業務への進出」も挙げた。

主なニュース  
破碎帯把握  
に新探査法